

みんなで語ろう！「子どもの夢・未来」ミーティング (南部会場意見概要)

1 府教育委員

大橋教育委員長、冷泉教育委員長職務代理者、谷口教育委員、田原教育長

2 傍聴者

26名

3 意見交換概要

○Aグループ

(大橋教育委員長、谷口教育委員 司会 橋本管理部理事)

■ 「次代を担う子どもたちに願うこと」 ■

- ・ 生まれてきたことを幸せに感じ、周りの人の幸せを願う中で、自分も幸せになるということが分かる人間になってほしい。
- ・ 子どもたちが体験を通じて、人と支え合うことを学んで行くことが大切である。
- ・ 喜怒哀楽が分かり、他人の痛みが分かる人間になってもらいたい。
- ・ 「生きる力」や「自尊心」：自分を大切に思い、親や人を敬う心、自然の中で工夫することができるようになってほしい。
- ・ 周りの人を応援でき、自分が困っているときにみんなに相談でき、みんなと解決に向けて努力ができる人間になってほしい。
- ・ どんな状況にも対応できる「人間力」、将来の目標を持ち努力することができるようになってほしい。

■ 「学校、家庭、地域に願うこと」 ■

- ・ 先生と親がつながりを持ち、それぞれの立場で子どもたちのために色々と協力してやっていくことが大切。
- ・ 子どもは親の姿をみているので、親も変わらないといけない。
- ・ 自分を大切に思い、親、人を敬い、自然の中で工夫することを学ぶ環境を親が整えていくことが大切。
- ・ 学校のみではなく、社会人の持っている知識も活用して子どもの教育に取り組むことが必要。
- ・ 家庭教育も大切であるが、子ども同士の対話・関わりが大切。子どもたちの心の教育を充実させることも必要。
- ・ 地域や色々な職業に就いている方々が協力して行くことが大切。
- ・ 子どもたちにコミュニケーション力がないのは、親にコミュニケーション

ン力がなかつたりする現状がある。このような中で、有名な先生ではなく、小さな不安を取り除くために、親の失敗談も含め、親の悩みを解消できればと思い、親のための応援塾を行っている。

- ・ 地域の皆さんに手助けをしてもらうことが取組の成功に繋がるのではないかな。
- ・ 世代の違う方から学ぶ場を創っていくことが大切だが、同じ年代ではなく違う世代が集まる機会を創ることが地域でも難しくなっており、学校で仕組みを作してほしい。
- ・ 異年齢が集まって、普段の何でもないことを一緒に取り組む中で、何かを掴むことがあるが、このようなことを通じて大人も子どもも育ちあいをすることが大切。
- ・ 参観日でも懇談会には、参加せず帰ってしまう親が多い。PTAも中心となって、給食を食べる企画など子どもの中に入っていき機会や親同士の懇談の場をつくっているが、参加者が少ない。地域とのつながりが少ないのが欠点ではないかと感じる。
- ・ PTA役員や行事を減らすということを契機に、子どもたちに何かしたいという思いを持った者が集まり、「親父の会」をやり始めた。1年やれば、おもしろくなり次の年もやる。先生とも地域ともつながりができ、色々な話も聞くことができる。
- ・ たくさんの人が集まってもらうためには、個人、地域、学校、行政が知恵を出し、協力することが必要。
- ・ 学校と地域が協力し、掃除をしたことがあるが、雑巾を絞るときに、雑巾をたてにして絞ることを先生も知らない。このようなことを地域が教えることができ、協力できると思う。
- ・ 開かれた学校というのは、素晴らしい。校長先生が中心となって、地域とつながりをもって学校を開いていく、地域とのコミュニケーションを色々な形で図っていくことが必要。
- ・ 子どもたちの中で、どのように育っているかなど学級便りなどで親に教えてもらいたい。学級便りで子どもの雰囲気わかれば、それを通じて、親のつながりもでき、教員とのつながりもできるので是非ともやって欲しい。
- ・ 忙しくて、学級だよりがだせないような教員の多忙化を解消することも大切。
- ・ 国、府、市町村からの通知、モンスターペアレントなどで先生も忙しく、やっている先生ほど大変である。
- ・ 地域との連携に関わって、学校の空き教室を将来、地域に開放することで、異世代の集まりができ良い場になるのではないかな。
- ・ 校長先生にもう少し、威厳と元気を持ってもらいたい。

○谷口委員

一步踏み込んだ意見がなかなか出てこない中で、色々な具体的な話を聴くことが出来て良かった。これをこれからの施策に繋げていきたい。親父の会の話も聞けて良かった。私も、親父の会をしているが、教育を学校だけでやっていくことは難しいと感じている。家庭・地域、社会総掛かりでやっていくことが大切であり、地域ぐるみで学校への協力をしていくことが大切であると感じている。

○Bグループ

(冷泉教育委員長職務代理者、田原教育長 司会 下河邊管理部総務企画課参事)

■ 「次代を担う子どもたちに願うこと」 ■

- ・豊かな人間性を持ち、心身ともに健康である大人。生き生きとした活力をもち、前向きに物事に取り組める大人。
- ・社会性・主体性・創造性を持った人間。
- ・明るく思いやりをもった人間。交通安全も思いやりの心から。
- ・挨拶など当たり前のことが当たり前にできる人間。
- ・地域の中で生まれ、人と対話ができる人間。
- ・都会の子どもたちも自然のすばらしさを本能的に知っていて、大人がちょっと手助けをしてやればいい。自然と存分にふれあい、心身ともにたくましく、人生の知恵を身に付けた人間。
- ・基本的な生きる力と社会性を身に付ける。
- ・大人になるまでに、人間は自分一人で生きていくのではなく、助け合って生きていく必要があることを実感する必要がある。社会の中で役割を果たせる人間。
- ・人の痛みが分かる人間、命の大切さを知る人間、人に感謝できる人間、ネットに依存せず人と対話できる人間、得意分野で十分に力を発揮できる人間、これからの日本を背負っていける責任を持てる人間。
- ・挨拶などの社会人としての基礎基本を身に付ける。自分の行動に責任を持てる。自分勝手ではなく社会のことを考えられる。夢を持って前向きに努力する。将来、子どもにしっかり向き合える大人になる。
- ・お金に関わる力から物を大切に作る心など、実社会で生きていく力、生活の基盤をしっかり身に付ける。
- ・塾など学力優先で、学校にも親にも子どもにも余裕がない感がある。様々な体験を積んで本当の意味での生きる力を身に付けてほしい。

■ 「学校、家庭、地域に願うこと」 ■

- ・初めての子どもで親として、しつけの方法が分からないときに、分からないことを教えてもらえる「親が学べる環境づくり」が望ましい。

- ・「どのような人間に育ててほしいのか」という先生や親の意識が希薄。特に親として責任をもって厳しく子どもに向き合うため、「親塾」のようなものが必要。
- ・親子で自然にふれあえる場をつくることが大切。
- ・心の教育こそ家庭や地域が担うべきもの。一家庭ではなかなか難しいので、地域ぐるみで取組が進めばありがたい。
教育委員会でしくみを作ってもらえばより進むかもしれない。
- ・教育は成果が出るまで時間がかかるものであり、長い目で見て「子どもたちをしっかりと親に育てていく」方が良いのでは。
- ・今、目の前にいる子どもに、学校や地域がしっかりと向き合う方がよい。
次代を担う子どもを育てるのは、さらに次代を担う子どもを育てることになる。
- ・子どもの安心安全・健やかな育ちは、学校や保護者だけでなく、地域の大人にも責任があり、積極的な声かけが子どもを育てるという意識をもつことも大切。
- ・登校の様子を見るだけで、子どもの心の状態や家庭内の様子が見て取れる。
地域の人間として、いいことをすれば褒めるなど、思いやりをもって声をかけてやりたい。
- ・地域活動が親同士のつながりを深め、それが親を育て、さらに子どもを育てることにつながるのではないか。
- ・学校と家庭と地域がトライアングルで子どもを押し上げていく必要がある。
- ・子どもの教育は学校や親だけではできない。学校の門を開き、地域と学校が一体になるために、草刈りなどできることから学校に協力を申し出て、少しずつ信頼関係を積み上げていくことが大切。
- ・地域から学校へ申し出を続けた成果として、今や、体育館や図書室、パソコン教室など、地域の活動に使える場所をどんどん広げてもらっている。
- ・交通安全の活動も多くの地域の行事に参加し、声かけを行うことで少しずつ学校との関わりを深めている。
- ・学校内に昔から地元の人使っていた井戸があり、事件の後、門を閉ざすかどうか議論があった。保護者からは「危ないのでは」との意見もあったが「地域の人にも見守ってもらおう」と呼びかけて理解を得られた。
- ・小規模校で、運動会も記念行事もすべて地域と一緒にやるなど、学校と地域との関係が非常に密である。こうした学校があることも知ってほしい。
- ・学校としては、地域の方にお手伝いなど学校に積極的に関わっていただくことは非常にありがたい。時間の確保や授業との兼ね合いなど難しい部分もあるが、これからも学校へどんどん助言をいただきたい。
- ・学校も親も地域も子どもをより良く育てたい気持ちには変わりがないのに、それぞれ何か遠慮があり踏み込めないのではないか。大上段に構えず小さなグループで話し合い、今日やれることから少しずつ取組を進めることも大切。
- ・教育委員会には現場の意見をもっとくみとる今回のミーティングのような場を数多く設け、教育改革をどんどん進めてほしい。

○冷泉教育委員長職務代理者

今日は多くの良い意見、特に地域と学校との関わりの部分で多くの意見をいただいたが、今後も学力や人間性などをテーマにこうした機会をもち、教育委員としての糧としていきたい。

○田原教育長

「生きていく力」とは、社会の中で生きていく力のことであり、そのための親の「育てる力」が問われており、簡単に処方箋がでる問題ではないが喫緊の課題である。学校・家庭・地域が小さな単位で子どもを育てる力を総合的につけていく必要がある。教育委員会として縛っているつもりはなく、学校には自由に取組んでもらい、我々は裏方として応援していきたい。教育委員会としても、できるだけ地域の活動など現場に関わる機会を持つようにしており、皆様には今後とも引き続きよろしくお願ひしたい。